

## 事後評価結果（令和2年度）

担当課：東北地方整備局 道路計画第一課  
担当課長名：田中 洋介

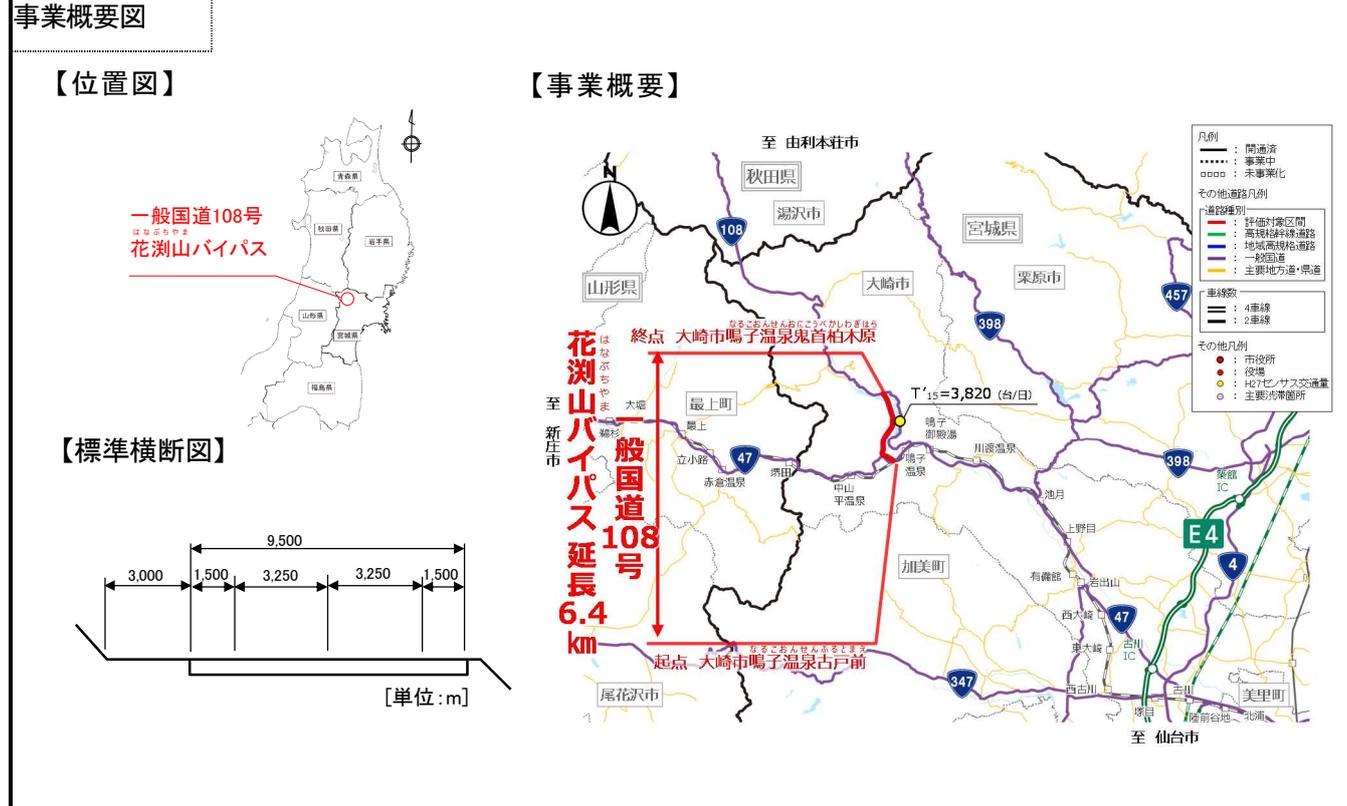
事業名	一般国道108号 <small>はなぶちやま</small> 花瀧山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県大崎市鳴子温泉古戸前 至：宮城県大崎市鳴子温泉鬼首柏木原			延長	6.4 km

**事業概要**

一般国道108号は、宮城県石巻市から秋田県由利本荘市に至る主要幹線道路である。  
花瀧山バイパスは、国道108号のうち宮城県大崎市鳴子温泉古戸前から大崎市鳴子温泉鬼首柏木原間の延長6.4kmのバイパス事業である。

**事業の目的・必要性**

花瀧山バイパスは、大崎市鳴子温泉地区における国道108号の現道隘路の解消や災害時の迂回路の確保等を目的としている。



事業の 効果等	事業期間	事業化	平成20年度	用地着手	平成元年度	供用年	(当初) -/H27	変動	1.00倍
		都市計画決定	—	工事着手	平成3年度	(暫定/完成)	(実績) -/H27		
	事業費	計画時	(名目値) -/120億円		実績	(名目値) -/114億円		変動	0.95倍
		(暫定/完成)	(実質値) -/147億円		(暫定/完成)	(実質値) -/116億円			
交通量 (当該路線)	計画時	(H19)		実績	(R2)		変動	91%	
	(暫定/完成)	-/3,400台/日		(暫定/完成)	-/3,100台/日				
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		39.2km/h → 50.0km/h		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)		20件/10年 → 0件/3年			
		(供用前年次) H27年度 (供用後年次) R2年度				(H17-H26) (H28-H30)			

費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	総費用 99億円	総便益 246億円	基準年  平成19年
	2.5	事業費：95億円 維持管理費：4.3億円	走行時間短縮便益：179億円 走行経費減少便益：67億円 交通事故減少便益：0.46億円	
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	総費用 176億円	総便益 352億円	基準年  令和2年
	2.0	事業費：149億円 維持管理費：27億円	走行時間短縮便益：317億円 走行経費減少便益：33億円 交通事故減少便益：1.6億円	
事業遅延によるコスト増		費用増加額	便益減少額	
		—	—	
事業遅延の理由				
—				
客観的評価指標に対応する事後評価項目				
<p>①現道等における大型車のすれ違い困難区間が解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北地方整備局鳴子ダム管理所付近（曲線半径150m未満20箇所）</li> </ul> <p>②三次医療施設へのアクセス向上の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼首地区～大崎市民病院（大崎市役所鬼首出張所～大崎市民病院（57分→54分）（3分短縮））</li> </ul> <p>③近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落が解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎市役所～秋田県湯沢市役所 通常時約110分（約100km）→通行止め時約151分（約135km） 約40分迂回 他10項目に該当</li> </ul>				
その他評価すべきと判断した項目				
・特になし				
事業による 環境変化	環境影響評価に対応する項目			
	・特になし			
	その他評価すべきと判断した項目			
・特になし				
事業評価監視委員会の意見				
・「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。」という対応方針（案）は妥当である。				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
<p>○周辺道路の整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ県北高速幹線道路 令和元年6月 IV期築館工区（1.7km）開通</li> <li>・国道108号 令和2年3月 古川東バイパス一部区間（1.2km）開通</li> </ul>				
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性				
・事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。				
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性				
・当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。				
その他特記事項				
・特になし				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものを。